

実を結ぶ若木

創世記四九章

ヨセフは実を結ぶ若木 泉のほとりで実を結ぶ若木。 枝は石垣を越えて伸びる。(22)

3/

ヤコブはいよいよその生涯を閉じるにあたり、十二人の息子たちを呼び寄せ、それぞれに遺言を語ります。ヨセフに対する言葉は最も長く、祝福に溢れています。神の祝福はヨセフの子孫に豊かに注がれ、その枝が垣根を超えて隣りへと伸びていくと告げられます。どんな時にも神と共に歩み、神に寄り頼んで生きたヨセフは、命の源である神から常に新しい命を受け続け、豊かな実を結ぶ若木のように大きく成長したのです。この言葉は、詩篇一篇の聖句を思い起こさせます。

「その人は流れのほとりに植えられた木のように。時に適って実を結び、葉も枯れることがない。その行いはすべて栄える」(3)。神の時が来たときに、ヨセフの人生は見事に大逆転し、豊かな実を結ぶものとなったのです。私たちの教会も、常に「泉のほとりの実を結ぶ若木」のような教会でありたいと願います。